

【 専門分野 老年看護学 】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名	
高齢者の理解	1	15 時間 (8 回)	1 年次・後期	西 真理子	
実践的教育内容	看護師として 5 年以上従事し (専門領域: 老年期において 3 年以上の業務従事も含む) 専任教員として必要な研修で老年看護学の領域についての教授方法を修了した者が、老年の発達課題から健康障害の特徴について教授する。				
学習目標	1. 高齢者とはどういう人かを理解する 2. 人間のライフサイクルにおける老年期の特徴を身体的・精神的・社会的・霊的側面から理解する 3. 老年看護の基本を理解する 4. 倫理的観点を持ち、高齢者の尊厳について考えることができる				
D P と の 関 連	■1) 多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 <input type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 ■3) 自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 ■4) 健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 <input type="checkbox"/> 5) 身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 <input type="checkbox"/> 6) 健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。 <input type="checkbox"/> 7) 専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。				
回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1 回 2 回	老いるということ 老いを生きるということ ・インタビュー ・時代背景 (歴史) ・時代の変遷 ・老年期と発達・変化	講義 講義	5 回 6 回	高齢者疑似体験 ・老化を体験する ・生活への影響を考える *クラスの半分は DVD 鑑賞	演習 演習
3 回 4 回	・高齢者の定義 ・加齢と老化 ・加齢の伴う 3 側面の変化 ・老年期の特徴 ・発達課題	講義 講義	7 回 8 回	・高齢者の健康 ・高齢者にとっての QOL ・多様な生活の場 老年看護の特徴 終講試験	講義 講義
評価方法	筆記試験 100 点		教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 老年看護 病態・疾患論 (医学書院) 国民衛生の動向	

【 専門分野 老年看護学 】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名	
高齢者の暮らしを支える看護Ⅰ	1	30時間(15回) ① 8時間(4回) ② 4時間(2回) ③ 8時間(4回) ④ 10時間(5回)	2年次・前期	① 休場 恵美子 ② 奥村 庸祐 ③ 米谷 江里 ④ 小笠原 美恵	
実践的教育内容	地域包括線センターで10年以上勤務経験のある看護師が、老年保険(介護保険制度含む)についての内容とその活用について教授する。 回復リハビリ病棟を持つ中小病院で、20年以上の勤務経験のあり看護師が高齢者の生活・症状・治療処置別看護について教授する。				
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者を取り巻く社会の特徴と諸問題、社会制度を理解する 2. あらゆる健康レベルにある高齢者の自立を考慮した日常生活行動に必要なケアの技法を理解する 3. 高齢者によくみられる身体症状を理解し、アセスメントから看護を考えることができる 4. 治療に関するマネジメントとケアの技法を理解する 				
DPとの関連	<ul style="list-style-type: none"> ■1) 多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 ■2) 看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 ■3) 自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 ■4) 健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 ■5) 身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 ■6) 健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。 □7) 専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。 				
回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1回 (休場)	高齢者の生活に関連する保健医療制度 ・保健医療福祉の変遷	講義 講義	7回	高齢者の生活機能を支える看護 ・日常生活の基本動作	講義・演習 講義・演習
2回 (休場)			8回		
3回 (休場)	老年看護の倫理 ・高齢者差別の防止	講義 講義	9回	高齢者に特有な症候のアセスメントと看護 ・発熱・痛み・掻痒・脱水	講義 講義 講義
4回 (休場)			10回 (米谷)		
5回 (奥村)			11回		
6回 (奥村)	高齢者の生活機能を支える看護 ・日常生活の基本動作	演習 演習	12回	治療を必要とする高齢者への看護 ・検査を受ける高齢者の看護 ・薬物療法を受ける高齢者の看護 ・手術を受ける高齢者の看護	講義
3回 (休場)			13回 (小笠原)		
4回 (休場)			14回 (小笠原)		
5回 (奥村)			15回 (浅原)	まとめ 終講試験	講義・試験
評価方法	筆記試験 100点 (①25点 ②15点 ③25点 ④35点)		教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 老年看護 病態・疾患論 (医学書院)	

【 専門分野 老年看護学 】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名	
高齢者の暮らしを支える看護Ⅱ	1	30 時間 (15 回) ①14 時間 (7 回) ②10 時間 (5 回) ③ 6 時間 (3 回)	2 年次・後期	① 羽田野文子 ② 福島 洋子 ③ 木岡 由紀	
実践的教育内容	回復リハビリ病棟及び療養型病棟を持つ中小病院に10年以上勤務している看護師が、臨床実習で経験する事例及び国家試験を考慮した代表疾患患者の看護を教授する。 高齢者の認知機能に関する看護の全般は、認知症の認定看護師が教授する。				
学習目標	1. 加齢に伴う主な疾病や障害の特徴を踏まえた看護を理解する 2. 健やかに生ききる高齢者への看護とその家族への看護について理解する				
DPとの関連	<ul style="list-style-type: none"> ■1)多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 □2)看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 ■3)自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 ■4)健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 ■5)身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 ■6)健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。 □7)専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。 				
回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1回 2回 3回 4回 5回 6回 7回 (羽田野)	高齢者に多い疾患の理解と健康障害に応じた看護 ① 脳神経・脳血管疾患 ② 心疾患 ③ 糖尿病 ④ 呼吸器系疾患 ⑤ がん ⑥ 骨・関節疾患など 病態生理・症状・診断・治療、看護の要点 (家族看護も含む)	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	8回 9回 10回 11回 12回 (福島)	認知機能の障害のある高齢者の看護 ・うつ ・せん妄 ・認知症	講義 講義 講義 講義 講義
			13回 14回 (木岡)	エンドオブライフケア ・死に向けての準備 ・生ききることを支えるケア ・意思決定への支援	講義 講義
			15回 (木岡)	・家族への支援 終講試験	講義・試験
評価方法	筆記試験 100点 (①50点 ②35点 ③15点)		教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 老年看護 病態・疾患論 (医学書院)	

【 専門分野 老年看護学 】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名	
高齢者の暮らしを支える看護Ⅲ	1	15 時間 (8 回)	2 年次・後期	西 真理子	
実践的教育内容	老年看護学担当教員が領域のまとめとして、ペーパーペイシエントによる看護過程展開技術を教授する。				
学習目標	1. 老年期にある対象の特徴や健康の状態を理解し、看護過程の展開を通して看護を見出すことができる				
D P と の 関 連	<p>■1) 多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。</p> <p>□2) 看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。</p> <p>■3) 自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。</p> <p>■4) 健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。</p> <p>■5) 身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。</p> <p>■6) 健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。</p> <p>■7) 専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。</p>				
回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1 回 2 回 3 回 4 回 5 回 6 回	疾患をもつ高齢者への看護 (看護過程の展開) ・情報の意味を考える ・疾患、症状の理解 ・社会保障システム ・安全・安楽・安心 ・家族看護 ・倫理的配慮	講義 講義 講義 講義 講義 講義			
7 回 8 回 (西)	上記の視点を含めて展開し実施する	演習 演習			
評価方法	筆記試験 50 点 レポート評価 50 点	教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 老年看護 病態・疾患論 (医学書院)	